

刊行に寄せて



文部科学大臣

末松信介

新型コロナウイルスの感染拡大から2年以上が経過しました。この間、困難な状況下で活動の継続に尽力されている全ての関係の皆様へ改めて敬意を表します。

我が国においては、感染拡大防止と国民生活に係る諸活動の維持の両立を図るため、国民の皆様の御理解と御協力を得ながら様々な取組を行ってまいりました。

文部科学省としては、ウィズコロナ・ポストコロナの社会を見据えつつ、引き続き現場からいただく声にしっかりと耳を傾け、直面する様々な課題に対して果敢に取り組んでまいります。

令和3年度文部科学白書では、特集として二つのテーマを取り上げました。

特集1では、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会の軌跡とレガシーの継承・発展」として、新型コロナウイルス感染症の影響による史上初めての延期を経て、2021（令和3）年に開催された東京2020大会を取り上げました。

大会でのアスリートの活躍や対戦相手と称え合う姿は、多くの国民や次世代を担う子供たちに、夢や希望、スポーツの価値を伝えてくれました。

本文では、こうした大会の概要や結果をまとめるとともに、大会の成功に向けた文部科学省としての取組やレガシーの継承・発展についても紹介しています。

特集2では、「新型コロナウイルス感染症禍における文部科学省の取組」について記載しました。

文部科学省が担当する教育、科学技術、スポーツ、文化芸術という行政分野は、人々の人生を幸福で豊かなものにし、我が国の成長の源泉ともなる、極めて重要な行政分野です。

その歩みを決して止めてはいけないという強い決意の下、令和3年度も新型コロナ対策を着実に実施してまいりました。

本文では、学校における感染症対策、子供たちの学びの保障をはじめとした教育関係の取組、ワクチンや治療薬等の研究開発基盤の強化のための支援、甚大な影響を受けているスポーツ・文化芸術活動、留学生への支援などを具体的に紹介しています。

文部科学行政の推進のためには、国民の皆様の御理解と御協力が不可欠です。

本白書が一人でも多くの方の目に届き、幅広く活用され、皆様の御理解を深めていただく一助となれば幸いです。